

令和6年度大田市立第一中学校学校通信

真実一路

大田市立第一中学校 〒694-0064 大田市大田町大田口656

第7号

2024.7.11

発行 校長

和田 美佐

自分で自分を守るために ～情報モラル指導・命の大切さを学ぶ教室より～ ～子どもたちを守るためにご協力ください～



情報モラルについて、全学年に指導しました。全国的に子どもから大人まで、ネットの世界での判断が甘く、自分自身に大きな傷を残してしまう事件が多く起きています。指導した内容は、実際に起きた事例を通して伝えていますので、ご家庭でも「自分のこと」として、考えるよう「SNS」の使い方について、ご家庭でも子どもたちをご指導ください。子どもたちを守るためにもご協力ください。

○「ネットやスマホの使い方(ルール)を決める」

ネット、SNSの利用やゲームは、**依存性が高い(やり始めたら止まらない)**ので、使い始める前にルールが必要。**ルールをもって使うことが、自分を守ることになります。**

→「使う時間を決める、有料のサイトにはつながない、決まった時間に保護者に預ける、必ずフィルターをかける」等、ご家庭でルールを作っていただきますようお願いします。

○「個人情報を出さない・なりすましが多いためネットで出会った人に会わない」

名前を出していないから、「何を書いても自分だとはわからない」と思っている人が多いそうです。しかし、実際には写真から場所が特定されたり、アカウントから名前がわかったりとネットの世界では、簡単に誰なのか特定されてしまいます。そこで、知らない人からの攻撃を受けることがあります。なりすましも多く、ネットで出会った人に会いに行ったら、相手は思っていた人と全く違い、連れ去られてしまったという事件、アルバイトで殺人を頼まれ実行してしまったという事件も起きています。

○「人のことを書かない・人の写真を勝手にアップしない」

友だちの悪口をささいな気持ちで書いたことで炎上し、そのことがどんどん知らない人にも広がり、攻撃的な書き込みがずっと続き、スマホがなり続けるという事例が、中・高校生には多く見られるそうです。また、人の写真を勝手にSNS上にあげて起きるトラブルが多いそうです。最近も他人の写真をSNS上で使った高校生が殺人事件にまきこまれたニュースが流れています。SNS上で、「他人のことを書く、写真を使う」ことは、相手だけでなく、自分も傷つけます。

○「ネット上のものはずっと残る」

一度ネットにあげてしまうと次々と誰かがコピーをしていってしまうので、「ネット上のものはずっと残る」。このことで将来、自分自身が困ることがあります。

○「人に迷惑をかけている動画をおもしろがって作らない、アップしない」

→**高額な賠償金を請求されることがある**

「お店などに迷惑をかけておもしろがっている動画」をアップし、子どもであっても高額な賠償金を請求されたり、誰がやったのかを特定されてネット上でずっと攻撃をされる事例があります。

ネットやスマホは便利で豊かなものです。使ってはいけないのではなく、「安心できる使い方」をしてほしいと考えます。

【学習用に配られているタブレットの約束】

大田市教育委員会より貸してもらっているタブレットの使い方について、校内で下記のように指導しています。

大田一中タブレットを使うときの約束

①学習と関係あることに使います

- ・授業中のみならず、休憩時間、家庭でも、学習のために使用します。



②相手を傷つけないかどうかを考えます

- ・内容のみならず、使用して良い場面かどうかを考えます。話を聞く場面での使用は、相手に失礼であることを礼儀としてわきまえます。

③健康に配慮して使います

- ・時間を決めて遠くを見たり、目が乾かないようにまばたきをしたりして、自分の目を大切にします。
- ・ぐっすり寝るために、寝る1時間前からはデジタル機器の利用は控えます。
- ・タブレットを見るときは、目を30cm以上離し、30分に1回休憩します。

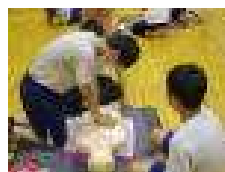


- ・タブレット端末本体、充電器、収納袋の3点を預けます。卒業時には回収して、新入生に引き継ぎます。大切に扱ってください。
- ・故意の破損以外は保証で対応します。破損した時は、すぐに先生に知らせましょう。また、紛失した時は、すぐに警察にも知らせましょう。
(大田一中:0854-82-0034/大田警察署0854-82-0110)

心肺蘇生法を学びました

6月20日に2年生が、日本赤十字島根県支部の方から「心肺蘇生法」を教えていただきました。みんな真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。中学生は、体格や体力において、大人の方を上回っていくことがあります。緊急時に大人と一緒に動ける人として期待もされます。

今回習ったことを忘れずにいざという時に行動ができる人になってほしいと思います。



一中のAEDがある場所



野球場上のトイレの壁



体育館の校庭に面した壁

「AEDを持ってきて」と言われたら、動ける人になろう
＝命をつなげる人になろう

命の大切さを学ぶ教室がありました/7月10日(水)

「島根被害者サポートセンター」「島根県警察本部」主催

自転車に乗っていて飲酒運転事故により、当時16歳だった息子さんを亡くされた三浦由美子さんが話をしてくださいました。息子さんの突然奪われた未来、現実を受け入れることにご本人もご家族も苦悩された様子。周りの友だちも苦しまれたこと。ありのままに語ってくださいました。子どもたちの感想の一部を紹介します。「自分のこと」
として考える感想がたくさんあり、今日のお話を一生懸命に受けとめた様子がうかがえます。

☆今までニュースで他人事と考えていたが、ご遺族のお気持ちを聞くと命は本当に重いものだった。加害者にも被害者にも絶対にならない行動をしたい。

☆自分は自転車に乗っていて、加害者になる可能性があると思った。自分の命だけでなく、相手の命も大切にする行動をしないといけないと思った。

☆今回のお母さんは、息子さんと同じようなことが起きてはいけないと思って立ち上がっておられてすごいと思った。だから、自分のこととして今日の話を考えていきたい。

☆今日話を聞いて、人が亡くなるということはもっと身近なことだと思った。ニュースで聞いても他人事、自分には起きないと思っていた。ても、普通に暮らしていた息子さんの身に起きた。私にすぐにできることは、今日のお話を周りの人に伝えることだと思う。

